

# ゆりかめめ yurikamome



早朝の氣比神宮は荘厳な雰囲気にも包まれています。お参りする市民も多く、境内を清掃奉仕する市民の姿もあります。お参りして帰りの大鳥居の中に見た十六夜の月です。

ごあいさつ 氣比神宮氏子青年会 会長 右近 守



氣比神宮氏は創立44年の歴史と伝統がある会です。戦後の総

数々の事情により仲哀天皇の御霊を陸路で常宮神社へお運びしてまいりましたが、御座船で海を渡る由緒ある歴史を復活させようと有志が集結したのが当青年会の始まりだと先輩から伺っております。現在会員は約100人おり、皆様の力をお借りして年間を通じ神事の手伝いや正月の廻廊授与所設営、燈籠の紙貼り、伊勢神宮献米お田植、稲刈り、勉強会等を行っています。数々のご奉仕の中で二大行事が7月22日の総参祭、9月3日の神幸祭となります。総参祭には船神輿渡御、御座船の準備をご奉仕します。会員は白丁に身を包み常宮神社まで供奉し、到着後紅白のえにし餅を振舞っております。神幸祭には御鳳輦の飾り付け準備を行い、当日の御鳳輦市内巡幸では猿田彦、黄丁をご奉仕し御鳳輦に供奉します。黄丁は氏子青年会のみご奉仕出来ず。

## INFORMATIONs

☆敦賀市立博物館  
特別展 「敦賀藩物語」 10月20日(木)～12月4日(日)  
江戸時代の中頃、越前国敦賀郡の一部に幕府有数の譜代大名であった小浜藩の支藩が誕生しました。敦賀湾沿岸の丸い山の麓に陣屋が置かれたため、鞠山(まるやま)藩と通称されたこの藩は、幕末まで存続し、最後はほんの短期間公式に「敦賀藩」と呼ばれ、近代に消滅します。「鞠山藩」に関わる多くの人々の中には、歴史を動かす立場にいた人やお家存続のために尽力した人、前代未聞の重大事件に立ち向かった人々などなど、様々な人物が縦横に活躍しています。その生きる姿は現在の私たちの姿と重なるかもしれません。

☆福井県立歴史博物館  
特別展 「百貨店の近代～文化と娯楽の花咲くところ～」10月22日(土)～11月27日(日)  
明治時代以降、大都市で誕生した百貨店は、その後、全国各地につくられていきます。百貨店は、ただ買い物をするための場所であるだけでなく、都市の文化や娯楽を象徴する場所でした。この展示では、日本と福井の百貨店の歴史をふり返り、百貨店と人びととのつながりの歴史を考えます。

### ガイドの依頼・問合せ

ガイドの依頼及び問合せは、敦賀観光協会にて受け付けています。申込み用紙は、下記のアドレス(敦賀観光案内サイト漫遊敦賀)からダウンロードし、必要事項を記入していただいた後、敦賀観光協会宛てにお送りください。  
敦賀観光協会 TEL 0770-22-8167  
FAX 0770-22-8197  
<https://www.turuga.org>

### ガイドメンバー募集中

観光ボランティアガイドつるがは、随時メンバーを募集しています。敦賀のことをもっと知りたい方、観光に来られた方に紹介したい方、人と接するのが好きな方、入会に制限はありません。下記の連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。  
ボランティアガイドつるが TEL 0770-21-0056  
敦賀観光協会 TEL 0770-22-8167

## 巻頭言 官幣大社 氣比神宮 宮司 桑原 宏明

観光ボランティアガイドつるがの皆様には、日頃市内観光地でのガイドにご尽力戴き心より感謝申し上げます。お陰様で当神宮へも年間通じて多くの方にご参詣頂き御社頭も賑わいを見せております。さて、ご存知の方も多いかと思いますが、昨年十月十五日には、当神宮が『氣比神宮にのぼる月』として、全国第六十一号「日本百名」へ認定登録されました。日本各地で名月を觀賞して夜景を楽しむスポットが数多くありますが、その中で当神宮の月が様々な条件の中から厳選され、百名月登録に至ったのであります。煌びやかで雄大な都心の夜景に映り込む名月の登録地が多い中で、ここ敦賀の登録地は、松尾芭蕉来訪の月所縁の地として語られ、氣比神宮の古い歴史が他の登録地と趣を異にしております。ひっそりとした杜の当地を訪れる方は、また違う名月の魅力に気付かされる事と思います。今後、市内関係各所にご協力いただき、名月に関する催事を模索しながら敦賀の観光地として新たな魅力を発信し、より多くの方の来訪を期待しております。愈々再来年には千載一遇、北陸新幹線敦賀開業も迫っております。境内環境を十分に整えてお迎え致しますので、皆様には変わらぬご崇敬を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

## 編集後記

敦賀市民に親しまれている氣比神宮。昼間は観光客が多いのですが、朝夕は敦賀市民の参拝も多く見受けられます。朝のルーティンにされてらっしゃるのか、色々な通りから氣比神宮に向かわれる方々を見かけます。ご夫婦の方、犬の散歩の方、一人で黙々と歩かれている方、ジョギングの方と様々です。今年の中秋の名月は、9月10日でした。当日はあいにくの曇り空でしたが、時々雲の合間から綺麗なまん丸の姿が見えました。翌日の十六夜の月は綺麗に見え「氣比神宮にのぼる月」の撮影に訪れている方もいらつしました。表紙は、早朝の氣比神宮のお参りの後、大鳥居を境内から撮影したものです。中秋の名月だけが満月ではありません。地球に近くなると大きくなるビッグムーンもあります。三日月も、上弦の月、下弦の月も澄み切った秋の空のお月様、氣比神宮にはお月様が似合う気がします。ご家族で、月の満ち欠けを予測して、松尾芭蕉も楽しんで「敦賀の月」を楽しまれてはいかがでしょう。(将)

# 敦賀のみどころ ④ 官幣大社 氣比神宮

氣比神宮は有史以来、敦賀の歴史と共に歩んできた神社です。市民からは、「けいさん」、「けえさん」などと呼ばれて親しまれています。官幣大社という社格と神宮の称号が北陸唯一のものであり、「北陸道総鎮守」とも呼ばれています。氣比神宮の境内には多くの「みどころ」がありますが、今回は、その一部をご紹介します。

## 氣比神宮の祭神

伊奢沙別命(いささわわけのみこと)を主祭神に、七柱祀られている。伊奢沙別命は、敦賀の人々に信仰されていた土着の神であり、古くより海上交通、農漁業始め衣食住の生活全般を護る神とされている。

702年8月4日、勅命により仲哀天皇・神功皇后を合祀して社殿を建立し、後に、日本武尊、武内宿禰命、応神天皇、玉姫命をお祀りしたと伝えられている。

## 朱漆塗りの大鳥居

鳥居の高さ約11m、柱間の幅が約7mで、厳島神社(広島)と春日大社(奈良)の鳥



写真は上から、百名月認土公之宮、芭蕉の銅像、角鹿神社、九社之宮、本殿、松尾芭蕉が『おくのほそ道』の旅で氣比社を参拝しており、境内全域が国指定名勝「おくのほそ道の風景地 けいの明神」に追加指定されている。

居と並び、日本三大木造鳥居の一つで、重要文化財に指定されている。大鳥居は、小浜藩の藩主酒井忠勝が寄進したものであり、1945年、終戦の年の三度の空襲で本殿などは消失したが、大鳥居は戦火を免れた。

約30年毎に修復が繰り返されており、最新の修復は、2017年に行われ、朱漆塗りの色が鮮やかに蘇り参拝客を迎えている。

## 境内神社や史跡等

### 土公(どこう)

神宮本殿の北東方向、天筒山の方角に、石垣で囲んだ円形の土盛りに木々が繁茂する

場所があり、「土公さん」と市民に親しまれている。氣比大神が降臨した場所とも伝えられ特別な聖域となっている。

## 角鹿神社

『日本書紀』には、朝鮮半島の大加羅国の貴人、額に角があつたというツヌガアラシトの渡来が描かれている。このことが敦賀の地名の由来ともされ、大陸との交流の要地であつたことを物語っている。角鹿神社の祭神である。

## 九社之宮(くしゃのみや)

本殿西側に本殿に向つて古くから九つの小社が、こじんまりとした空間に祭られている。

天利鞞神社(あめのとつるぎじんじや)、天伊佐奈彦(あめのいざなひこ)神社、天伊弉奈姫(あめのいざなひめ)神社の3つの式内社に、6つの小社を合わせて九社之宮という。

## 芭蕉の銅像

江戸時代の俳人、松尾芭蕉が『おくのほそ道』の旅で氣比社を参拝しており、境内全域が国指定名勝「おくのほそ道の風景地 けいの明神」に追加指定されている。

長い歴史を誇る氣比神宮には、ご紹介した以外に沢山の「みどころ」があります、ゆつくりと巡ってください。

## ガイドの活動と楽しい出来事

ガイドつるがの会員は、観光客の皆さんへのご案内等を行いながら、楽しい出来事も沢山経験しています。今回は、松木恵美子会員のエピソードをご紹介します。

6月24日(金)、敦賀市立栗野小学校三年生、約100名を4人のガイドつるがのメンバーで案内しました。ガイド一人が約25名の生徒さんを受持ちましたが、その日はとても蒸し暑く、熱中症の心配もあり、木陰に入ったり水分補給のタイミングも考えてのガイドになりました。

事前のガイド同士の相談で、歴史についてはサーッと話し、大鳥居については少し詳しく説明しよう決めて、氣比神宮境内をガイドしながら回りました。皆さん流石に敦賀市内の生徒さんで、話もよく聞いてくれて、熱心にメモも取り、また色々知っている様子でこちらの説明にも頷きながら聞いてくれました。



で、学校での事前学習の様子があがえましました。最後に、土公さんの所で、天筒山に向かってお話をして今回の一通りのガイドは終了しました。その後、質問タイムに入り、生徒さん達から一人一つずつくらいの質問が出ました。「土公さんの周りを囲っている杉の木の高さは、何メートルですか?」、「氣比さん祭りがあんなに長いのはどうしてですか?」などから始まり、仲哀天皇に関する質問など、色々な質問が飛び出しました。知っている事には小学三年生の生徒さんにも分かるように丁寧な答える一方、「杉の木の高さ」など本当に素直に分からない質問もあり素直に「わからないね」と答えて

いました。質問した生徒さんが「分かりました」と返事してくれるとホッとして次の質問に移り、時間の許す限り質問タイムが続きました。帰りの時間になり、バスに乗り込み座った途端にみんな私たちに手を振ってくれて、バスが神宮の境内を出るまでそれが続いて、ガイド四人は外の暑さも忘れて手を振り笑顔で見送りました。皆んな元気で明るく、可愛らしく、沢山の孫たちに囲まれているようで心に残るガイドになりました。疲れも感じませんでした。数日して、生徒さん達から礼状が届きました。一生懸命説明した大鳥居の絵を描いてくれてるものも多くあり、ありがとうの言葉や、似顔絵を描いてくれてるものもあり、見送った時にガイドの楽しみを満喫したのに、更に、礼状をもらって、本当にガイドをして良かったと心に残るものでした。

彼らが大きくなっても敦賀を好きなまま居てくれることが一番の希望です。

## 福井の語り部ガイド発表・交流会

福井県観光ボランティアガイド連絡協議会主催のガイド発表・交流会が7月1日に敦賀で開催されました。

本会合の目的は、県内の各ガイド団体の情報交換や交流研修会を通してレベルアップを図り、よりよいガイド活動を目指すものです。

今回は、県内の観光ボランティア11団体から、60名の参加がありました。最初、参加者全員が集合してガイドつるが増田会長から、私どもの取り組み状況を「コロナ禍にあつても今できることを着実に」と題して紹介し、意見交換を行いました。参加者からは、高齢化への対応やコロナ禍での対応などの意見・質問も出され、これからも情報交換しながら取り組んで行くこととしました。

その後、ガイドつるがの案内で松尾芭蕉も訪れた色が浜、研修旅行でも人気の人道の港敦賀ムゼウム、鉄道資料館を4班に分かれて巡っていただきました。



「みなと・つるが・いまむかし」の改定

私も「ガイドつるが」は、敦賀の観光スポット、敦賀に縁のある人物、自然や古道などを一冊の本(A4、全23章、160頁カラー版)にまとめ図や写真も多く取り入れ「みなと・つるが・いまむかし」として、金ヶ崎緑地の鉄道資料館で販売しています。税込み、1500円です。

市民の皆さんに手に取っていただき、敦賀の事について新たな発見があれば、また、敦賀に来られる観光客の皆さんへのおもてなし、ご案内の一助になればと願っています。詳しくは、鉄道資料館までお問い合わせください。

